恩納間切創設から350年

恩納村は1908年3月までは「恩納間切（まぎり）」と呼ばれていました。「間切」とは現在の市町村のようなものです。また、各字や区は「村（ムラ）」と呼ばれていました。

では、「恩納間切」はいつ誕生したのでしょうか。恩納間切は1673年、今から350年前にできました。それまでは字恩納より北側は金武間切、谷茶より南側は読谷山間切でした。1673年に金武間切から当時の名嘉真、安富祖、瀬良垣、恩納の4つのムラ、読谷山間切から谷茶、冨着、仲泊、久良波、読谷山（山田）、真栄田、塩屋、与久田の8つのムラを割いて合併して恩納間切が創設されました。

『球陽』という史料にその時の記録があります。

其の金武郡（間切）内の四邑、亦読谷山の八邑を将て、合して恩納郡（間切）と為し、始めて向弘毅（大里王子朝亮）・毛国瑞（佐渡山親方安治）に賜ふ。

創設された恩納間切は大里朝亮と佐渡山安治という人が管轄することになったこともわかります。恩納間切の番所（今でいう役場）は恩納ムラに置かれ、「恩納間切」という名前も「恩納ムラ」からとったのだろうと思います。恩納間切の行政の中心は恩納ムラとなり、現在まで続いています。ところで「おもろさうし」という史料の「第十七巻」のタイトルは「恩納より上のおもろ御さうし」となっています。この史料は恩納間切創設前のものですから、この「恩納」は恩納ムラを指しています。当時から要所と認識されていたのでしょう。

【おんなのろの辞令書】

恩納ムラが金武間切に所属していたことを示す史料を紹介します。「おんなのろ」の辞令書です。「のろ」とは王府時代に村落の農耕儀礼を主導的につかさどった（司った）女性の神役で、王府から辞令書で任命されていました。どちらの辞令書もまだ恩納間切が創設される前のもので「金武間切のおんなのろ」と書かれています。

【土地整理と間切時代の地図】

次に、恩納間切時代の地図（村指定文化財／恩納村教育委員会所蔵）を紹介します。この地図は沖縄県が1899年から1903年にかけて行った土地整理事業の際に作成されたものです。土地整理